

中小企業の魅力を存分に体験できる企画や、
熱意にあふれる高専等の教授陣の
わかりやすい講義と実践に即した実習満載

高専などでの能力開発サポート	
① 苫小牧工業高等専門学校	北海道(苫小牧市)
② 函館工業高等専門学校	北海道(函館市)
③ 八戸工業高等専門学校	青森県(八戸市)
④ 一関工業高等専門学校	岩手県(一関市)
⑤ 宮城工業高等専門学校・ 仙台電波工業高等専門学校	宮城県(名取市・ 仙台市)
⑥ 長岡工業高等専門学校	新潟県(長岡市)
⑦ 沼津工業高等専門学校	静岡県(沼津市)
⑧ 形立産業技術高等専門学校	東京都(品川区)
⑨ 群馬工業高等専門学校	群馬県(前橋市)
⑩ 長野工業高等専門学校	長野県(長野市)
⑪ 豊田工業高等専門学校	愛知県(豊田市)
⑫ 岐阜工業高等専門学校	岐阜県(本巣市)
⑬ 石川工業高等専門学校	石川県(河北郡)
⑭ 富山工業高等専門学校	富山県(富山市)
⑮ 鈴鹿工業高等専門学校	三重県(鈴鹿市)
⑯ 奈良工業高等専門学校	奈良県(奈良市)
⑰ 福井工業高等専門学校	福井県(鯖江市)
⑱ 和歌山工業高等専門学校	和歌山県(和歌山市)
⑲ 明石工業高等専門学校・ 神戸市立工業高等専門学校	兵庫県(明石市・ 神戸市)
⑳ 岡山工業高等専門学校	岡山県(岡山市)
㉑ 松江工業高等専門学校	島根県(松江市)
㉒ 宇都宮工業高等専門学校	山口県(宇都宮市)
㉓ 阿南工業高等専門学校	福岡県(阿南市)
㉔ 久留米工業高等専門学校	福岡県(久留米市)
㉕ 都城工業高等専門学校	宮崎県(都城市)
㉖ 熊本電業工業高等専門学校	熊本県(合志市)
㉗ 佐世保工業高等専門学校	長崎県(佐世保市)
㉘ 八代工業高等専門学校	熊本県(八代市)
㉙ 鹿児島工業高等専門学校	鹿児島県(鹿児島市)
㉚ 熊本大学・熊本工業高等学校	熊本県(熊本市)
㉛ 沖縄工業高等専門学校	沖縄県(名護市)

若者と中小企業の出会いのサポート	
① (株)会津エソノオフィス	福島県(会津郡)
② (財)デジタルコンテンツ協会	東京都(千代田区)
③ (株)浜名湖国際観光センター	静岡県(浜松市)
④ (財)大田区産業振興協会	東京都(大田区)
⑤ (社)首都圏産業活性化協会 (TAMA協会)	東京都(八王子市)
⑥ (社)関東ニュービジネス協議会	東京都(港区)
⑦ NPO法人 OCP総合研究所	東京都(八王子市)
⑧ (財)上田産業科学振興会	長野県(上田市)
⑨ 三重県商工会館所連合会	三重県(津市)
⑩ NPO法人 NPO愛知ネット	愛知県(安城市)
⑪ 立命館大学理工学研究所	滋賀県(草津市)
⑫ 彦根商工会館	滋賀県(彦根市)
⑬ 和歌山県中小企業団体中央会	和歌山県(和歌山市)
⑭ (社)香川経済同友会	香川県(高松市)
⑮ (株)パノナキャリアアセット	大阪府(大阪市)
⑯ (社)中国地域ニュービジネス協議会	広島県(広島市)
⑰ (有)アジアビジネスコンサルタント	福島県(福島市)
⑱ (有)オーシャン21	沖縄県(那覇市)

※①が今回取りあげられた5事業です。



あなたの夢や理想を実現するために。

中小企業☆人財支援プロジェクト

平成18年度中小企業人材の確保・育成支援のバックアップ事業

お問合せ先



中小企業庁

〒100-8912 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号

<http://chusyo.meti.go.jp>

若者と中小企業の出会いのサポート

[若者と中小企業のネットワーク構築事業]

経営支援部経営支援課

☎03-3501-1763

高専などでの能力開発サポート

[高専等を活用した中小企業人材育成事業]

経営支援部技術課

☎03-3501-1816

小さいから自分を出せる。

小さいから責任ある仕事ができる。

小ささの中にたくさんの夢が詰まっている。

そんな「中小企業」の若者向け一大プロジェクトをご覧ください。

次代の産業を担う、人という財者。
 珠玉の「技」と「心」を手に入れるなら、
 やりがいあふれる中小企業が狙い!

「中小企業」という選択肢で、広がる大きな未来。
 やりがいも技術も見つけられるプロジェクトがココにあります。

「中小企業」って・・・、情報がなさすぎて
 実際は何もわからないから選ばない、というのが事実。

地域にどんな企業があるのか
 実は知らない。

親を安心させたいから、
 知名度のある大企業がいいな。

希望の職種の求人情報は、
 大企業しか載っていない。

入社後の研修を、
 きちんとやってくれているのが不安だ。



そんなときにはこのプロジェクト

経営者が技術者が、身近で語る。
 あなたの生き様を描けるこのプロジェクトのすごさとは?

交流フェアやセミナーなどを通じて、
 多くの企業情報を発信。

One to Oneの語らいの場をプロデュース。
 意外とすごい中小企業の
 心意気も情報も、ここでゲット!

採用前の知識取得、
 採用後の技術取得で強力サポート。

技術も設備もそろそろ高専での
 高度な講義・実習。



中小企業の魅力を知るにも、
 基礎はもちろん、ハイレベルな技術を学ぶにも、
 このプロジェクト!

就職前

出会いの
サポート

出会い、語らい、理解できる!

若者と中小企業の出会いをサポートするプログラム

このプロジェクトは、若者とのコミュニケーションの少ない中小企業と、地域の若者との架け橋を創出するプログラム。平成18年度に全国18の地域でプロジェクトがスタートしています。それぞれ、地域の産業特性や実情に詳しい地域の機関がコーディネーターを務め、中小企業の魅力を存分に体験できる企画を推進中。例えば、社長の力バシを持ちを行ったり、セミナーを開催したり。経営者の熱い想いや中小企業の高度な技術力に触れ、その温度を体感すれば、あなたの考え方も変わるかも。やりがいは、意外に身近な企業に転がっていたりします。



就職

高度な技術の習得と、意識レベルが向上できる!

高専等を活用して若者の能力開発を
 地域でサポートするプログラム

無限のポテンシャルを秘め、ひたむきにものづくりにはげみ、そして、明日の日本の産業界を担う若者を応援する。すでに全国で30のサポートプログラムがスタートしていて、それぞれの地域の高等専門学校が保有する設備や知見を活用し、地域の中小企業の若手技術者の能力開発を支援するプログラムが提供されています。

「中小企業は研修が整っていないのでは」という不安に応えるこのプログラム、熱意あふれる高専等の教授陣や地域のベテラン技術者が講師を務めます。高度な技術をわかりやすい講義と、実践に即した実習で、基礎はもちろん専門的な技術の習得に向け、全国で若手社員が奮闘中!!



能力開発
サポート

就職後



世界に誇るコンテンツは、中小企業で生まれている

コンテンツ産業で魅せる、職業人になる!

世界に誇る産業として、破竹の勢いで発展するコンテンツビジネス。

2005年度の映画興行ランキングでは2位に80億もの大差をつけ「ハウルの動く城」が堂々の1位に輝いた。グッズ販売などのライセンスビジネスも、大きな収益を上げている。

この多様化する巨大な産業を支えるのが、コンテンツを制作する「プロダクション」と呼ばれる中小企業たちだ。ここで、クリエイターやプロデューサーが、数々のビジネスを生みだしている。しかし、その門戸は必ずしも広いとはいえない。中小企業がゆえに情報発信力が弱いためだ。情報が乏しく、就職活動をどこからはじめたものやら、見当がつかない人も多いのではないだろうか。

そこで、若者が大きな可能性にチャレンジする機会を増やすべくスタートしたのが、「デジタルコンテンツ企業の魅力発信プロジェクト」だ。



ココがポイント! 1

業界初! 制作会社と1対1で語り合える
クリエイター型人材のための道場フェア、開催

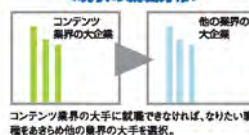
「目指すは就職のロングテール化」。そう語るのは、(財)デジタルコンテンツ協会の若村閑児さん。大学や専門学校でコンテンツ制作を学んだのに、どこかの制作会社に行ってよいのかかわからず、別の業界の名前を知っている企業志向になりがちな若者と、求人のために人や時間を多く割けない中小企業のミスマッチを解消し、お互いの理解を深める機会をつくろうと、平成19年2月28日(水)にクリエイティブな仕事の博覧会「クリ博」が青山TEPIAにて開催される。首都圏の制作会社約50社が参加予定だ。

ココがポイント! 2

いっぱいある制作会社の就職情報を一手に集める情報交流の場が誕生

クリ博の告知は主に、首都圏にある約100の大学や専門学校をネットワークした「学校連絡会」を通じて行われる。この会は、いまはまだ、学校関係者と企業側が情報を交換する場としての役割がメインだが、ゆくゆくは企業と学校、学生を直接つなぐ場として機能させていきたいという。

<現状の就職分布>



<目指す就職分布>



ココがポイント! 3



一大ビジネスを生むおもしろさを体験
プロデューサー型人材に、ハイブリッドインターンシップ

「アニメ業界は外から見ると魅力があり、作品が好きだからと夢を見て入ってくる人が多い。そうじゃなくてここは仕事をする場。厳しい世界だ」と語るのは、本プロジェクトのコーディネーターである宮徹さん。実際、2000年頃を境に、コンテンツ産業は、単純に制作するスタイルから、自分たちでビジネスを考えて利益を配分していくモデルへとシフトしてきたという。そんな中、プロデューサー型人材のニーズが急速に高まってきた。そこで生まれたのが、①入門ギャザリング、②課題解決型インターンシップ、③課題解決ワークショップ、④ネットワーキングセミナーの、4つのプログラムで複合的に構成される「プロデューサー人材育成のためのハイブリッドインターンシップ」だ。

プロデューサーに求められるのは、法律や語学の知識、マーケティングや資金調達などのビジネスノウハウだ。インターンシップでは四年制大学を中心にした14名が実際の現場に触れながら「将来のプロデューサー像」を探る。今回、学生が真剣にプログラムに取り組んだ結果、そのうちの2名がインターンシップ先の企業に就職が内定するという成果をもたらした。

ハイブリッドインターンシップの4つのプログラム



1. プロデューサー入門ギャザリング

四年制大学の学生を中心に、プロデューサーの仕事の基本やハイブリッドインターンシップの意義を東京工科大学プロデューサーの三上浩司先生と漫画「キル・ビル」等を手がけた(株)プロダクション・アイジーの藤下謙司さんに学ぶ。



2. 課題設定型インターンシップ

3日～1週間のインターンシップを実施。短い期間だが「また遊びに来いよ」といわれる濃密な数日間。チームに分かれて7社の映像コンテンツ企業で実施。



3. 課題解決ワークショップ

インターンシップの体験をもとに、意見交換。「自分の体験だけではなく、他社の例も見ることで、視野が広がっていく。この14名には同期会をつくって、社会に出てからも連絡を取り合うよう話している」とは、三上先生の談。



4. ネットワーキングセミナー

2チームに分かれ、インターンシップとワークショップの成果を発表。「著作権を放棄し、顧客のバイス大を扱う」という提案には、企業から「著作権について認識が甘い」という厳しい指摘も。



目からうろこの読者メッセージ

「人ができること、人のできないことをすること」
それが自分の強みになる!

平成18年11月18日(土)には、クリ博のガイダンスが東京都の文京学院大学で開かれた。第一線で活躍するクリエイターの森田宏幸さん、田口健太郎さん、水口哲也さんや制作会社の人事担当者らが「スキルは入ってからでもつけられる。何をやりたいのか、何をやりたのか」という思いが大切。「仕事探しのコツは求める側を知り、自分自身を客観視すること」などの熱いメッセージを集めた320名の学生に投げかけた。これに対して、学生からは「企業が技術だけではなく本人の目標を重視していることに安心した」「作品を作るうえでただ純粋につくりたい、人を楽しませたい、という気持ちをもって努力していきたい」という声が寄せられた。



「夢の成真」などで活躍するアニメーター
森田 宏幸さん

この事業に賛助する
賛助・お問い合わせ先

財団法人 デジタルコンテンツ協会

〒102-0082 東京都千代田区一番町23番地3 日本生命一番町ビルLB
TEL.03-3512-3901 FAX.03-3512-3908 URL <http://www.dcaj.org/>





師匠も、先輩もここにいる。頼れる仲間も、ここにいる

自分探し、やりがい探しなら 信州・上田のARECに聞け!

「自分は何をしたいのか」「やりたいことがあるけれどどうしたらいいのか」「就職したいけれどいい企業が見つからない」……。こんな悩みはひとつでも思い当たるならば、それを解決してくれる、とっておきの場所がある。それが、信州大学繊維学部に着る上田市の産学官連携施設「AREC(エーレック)」だ。ここでは5人のコーディネーターが、高い技術力を誇る中小・ベンチャー企業ネットワークと、軽いネットワークを武器に、学生が就職に対して抱えている「不安」「不満」に真向から立ち向かう。

趣旨に賛同した企業や、彼らを募り集まった学生も一体となって「企業の魅力」と「学生の自分探し」に取り組むARECから目が離せない!!



ココがポイント! 1



「やりたいこと」を「実現できる企業」を巧みにコーディネート
豊富な人脈と強固なネットワークが活動推進の原動力!

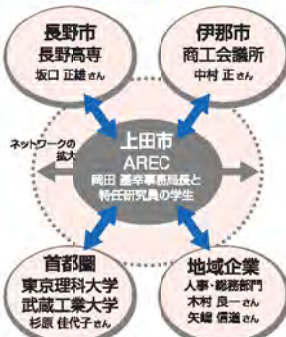
ARECはもとより、175社の会員企業を抱える産学官連携施設だ。技術支援やマッチングノウハウには定評がある。そこで、学生のやりたいことを実現できる企業とのマッチングを目指し、様々な取り組みがスタートした。そのひとつが、カバーするエリアと企業の拡充。南信地域の伊那商工会議所に分室を置き、製造業を中心とした企業ネットワークを強化した。ここでは、ハローワーク長野と共同で、就

職相談会も開かれている。さらに、技術部門とは既に強力な信頼関係がある企業と、人事部門で新たな展開を図ろうと人事・総務担当者の組織化が行われている。企業ネットワークのインフラ整備は万全だ。

一方、学生に対しても積極的なアプローチが行われている。長野市にある長野工業高等専門学校では学生に働きかけ、企業見学会や企業講演会が実現した。今後は、企業に密着してインターンシップを行う「企業書生」も検討中だ。ほかにも、首都圏の大学に通う学生にも、ターン・リターンに関するアライイングを行うなど、学生の意見に広く耳を傾けている。

ネットワークを通じてARECに集まる求人・求職情報をマッチングさせるシカケづくりをコーディネーターがそれぞれ担当する。4つのエリアでそれぞれの取り組みが行われているので、今後の動きに期待して欲しい。企業会や交流会で見かけたら、ぜひ、声をかけてみるべし!

<ARECのネットワーク>



ココがポイント! 2



「それ、やってみよう」のひとつで、数々の企画が動き出す!
学生の声を生かした、学生のためのプログラムづくり

ARECには、5人のコーディネーターと共に働く9人の「特任研究員」がいる。彼らは信州大学繊維学部に着る学生で、大学内で初のベンチャー企業を立ち上げたり、大学祭の委員長を務めたり、中国からの留学生だったり、それぞれが実に多彩な経歴をもつ。多くの仲間と囲まれ、信頼も高いという。そんな彼らが、AREC事務局岡田基幸さんとひよんなきかけで知り合い、その熱意に共鳴して、活動に参加することになった。これで、更なる弾みが付き、学生の声を反映したプログラムが次々と生まれている。

企業の魅力発見の場づくり

「上田には色がない。魅力を感じないから、どうしても企業まで目が向かない」と語る学生に、元気な企業との出会いの場をプロデュース。軽食をつまみながらの座談会や、企業見学会で確固たる理念や、高度な技術に触れる。「上田にも高い志を持つ、すばらしい企業があることに気づき、大きな刺激になった」と、経営者と直接語り合う機会が、視野をひとつ広げたようだ。



「学生が知りたい情報と、企業が知らせたい情報のミスマッチを解消していきたい」と語るランバイク(株)永演社長。



ペットボトル製造の日清エー・エス・ビー機械(株)と医療関係の洗浄・滅菌処理機器の製造のサクラ機械(株)を訪問。

自分のやりがい探しの場づくり

特任研究員が主体となって、学生だけの座談会も開催された。「やりたいことがなく、中小企業の情報も少ないと、目に触れやすい大手にかなたよ」との意見に、「やりがい探し」の支援プログラムもスタート。積極的に活動するカリスマ学生から話を聞く「交流会」や「就活祭」を開催する。やりたいことが見つければ、それを実現できる企業探しはARECにお任せ!!



「学生がポジティブに話を聞く下地づくり」との意見もでた座談会。学生主催の「就活祭」も企画された。



カリスマ学生を囲む交流会。「自分のやりたいことをみつめる機会を作りたい」と岡田さん(右から3番目)。

参加企業Voice

学生は会社と自分が共感できる部分を求めている
人間的な繋がりをつくって、企業の魅力を高めたい

ランバイク株式会社 エネルギー管理士 新田 昭三さん



「会社で働くということは、その人の人間性や根性、人間関係を育てていくこと」。
メンテナンス事業や介護システムの開発、環境商品を手がけるランバイク(株)の新田さんは、働く意味をそう説く。そんな新田さんの言葉に、熱心に聞き入っていた学生への印象を尋ねると「学生は、会社と自分が共感できる部分を求めていると強く感じたが、一方で私達が思っている以上に学生に情報が届いていない。面接とは別に、このような自然に話す機会をどんどんつくって、一対一で語り合っていきたい」との答え。さらに「学生には、人間的な繋がりを通じて、企業の魅力を感じて欲しい」という思いを語ってくれた。

この事業に関する
質問・お問い合わせ先

財団法人 上田繊維科学振興会 上田市産学官連携支援施設(AREC)
〒386-8567 長野県上田市常田3-15-1
TEL.0268-21-4377 FAX.0268-23-6673 URL <http://arecplaza.jp/>



学生から企業へ、事業提案してみたら!?

初めての体験に戸惑い、伸びる 僕らのプレゼン奮闘記!!

3つの大学がキャンパスを構え、約5,000人の学生が集う滋賀県彦根市だが、学生にとっては刺激がうよっぱり足りない。「週末は足を伸ばして京都・大阪」という人も多いようだ。しかし、「仕事に邁進」という点では、彦根市は滋賀県内で唯一の特徴を持っている。それは、働く場所が地域内にあり、そこを拠点に人が集まってくる「独自通勤圏」が形成されていること。それだけ元気な企業が、彦根市には多く存在しているのだ。産業構造も国宝彦根城や琵琶湖を擁する観光産業、全国の約4割の生産高を占めるパルプ産業、そして伝統的工芸品指定第1号の仏壇産業と幅広い。しかし、学生にはイマイチ認知度が高くないのが現状だ。そこで、地域産業の魅力を知ってもらおうと、彦根商工会議所がインターンシップを企画した!

ココがポイント!



実践型インターンシップのエキスパートが本誌判! 彦根の企業を知り尽くした商工会議所だから実現した 地域密着の課題解決型インターンシップ

今回のインターンシップは、(株)リクルートで数々の地域活性化事業を構築し、現在は日本各地で地域活性化や人材育成をテーマにした実践型インターンシップをプロデュースする(有)キャリアファクトリー代表の木島洋嗣さんがコーディネーターを務める。プロのノウハウを採用し、学生・企業双方にとって十分な効果が得られるようにすることが狙いだ。しかし、インターンシップに重要なのは、プロのノウハウだけではない。成功を左右するのは、そのノウハウを実際に地域で運用する人の熱意なのだ。その点、多くの地域で失敗例も見てきた木島さんが本誌判を押す。

彦根の基幹産業を担う5社を選出し、経営者に直接判してインターンシップへの参加を促した中川八州男さん。地域の課題をいち早く察知し、解決のためのノウハウをもつ木島さんへ働きかけた柴田雅美さん。地域に根ざした二人がいたからこそ、実現したインターンシップ。その思いが経営者を動かし、学生を動かし、地域企業が抱える5つの課題解決に結実しようとしている。



ココがポイント!



学生と企業が体当たりのガチンコ勝負!?

社会の現実を目の当たりにした1ヵ月半のインターンシップ

課題解決型インターンシップは、企業の事業プロセスや経営に潜む課題の解決策を、学生自らが発見するプログラムになっている。木島さんが講師を務める週1回の研修以外、企業への訪問回数や、課題解決策を導くために何をするかは原則、学生に委ねられる。現場を見学したり、マーケティング調査をしたり。それぞれのチームで趣向をこらす。企業の生の現場との触れ合いは、地場産業を担う中小企業の活力と魅力が体感できる瞬間だ。さらに、会社の一員として「経営課題」を解決することで、社会人としての心構えも養える。ただし、この方法は自由度が高く、学生・企業双方の負担を軽減する反面、お互いの意識が低ければ何の結果も得られずに終わってしまう可能性もあるから注意が必要。体当たりで挑んでこそ、多くの成果が得られるインターンシップなのだ。

1 学生&企業マッチング

学生と企業が直接面談をし、それぞれの「指名」により、インターンシップ先の企業が決定。18名の学生と、5社の彦根市企業とのマッチングが行われた。

2 事前研修会

インターンシップ前の心構えや最低限のマナーを学ぶ。本島コーディネーターを中心に企業と学生の横断が行われる。

3 インターンシップ開始

企業ごとのチームに分かれて、インターンシップを開始。店舗を回ったり、工場見学したり、企業の活動に実際に参加し、従業員の方々の意見を聞く。

4 週1回の研修会

本島コーディネーターを講師に、商工会議所において研修会を実施。企業の課題を抽出し、課題解決に向けた提案づくりを行う。

5 調査・企画立案

顧客や社員の方に向けたアンケートやインタビューなど、体当たりの現場調査を実施。課題解決の糸口を探る。

6 プレゼン前研修

最終プレゼンに向け、企画もいよいよ大詰め。分析結果をうまくいかにせよ。本島コーディネーターのグセが飛び、プレゼン前日の深夜まで、修正作業が続けられたチームも。

7 いよいよ、最終企業へプレゼン

企業の幹部の方々に前に、自分たちが考えた課題解決策を披露。なれない発表に、企業の方から後援のアドバイスを受けることも。

参加者Voice

企画の自己評価は60点 まだまだ調べたりないことがある

株式会社永楽屋のインターンシップに参加した

加古 渉さん 東 諭史さん 上田 真理子さん 久米 秀典さん



課題の分析方法も企画のまとめ方も、何もわからないところからはじまったインターンシップ。しかし、最終プレゼンでは「学生の顔が、日を重ねることにりりしく、頼りがいのあるものになっていった」という声も聞かれるほど、学生にとっても企業にとっても熱い1ヵ月半が繰り返されたようだ。

「インターンシップを始める前は80点を目指していたが、実際の点数は60点」と評価する彼らは「もう少しみんなが集まればよかった」と口をそろえる。学生の夏は忙しいとはいえ、そこが心残りだという。しかし、一人一人は役割分担をして、活動に動いた。「はじめは何をしただけのかわからず不安だらけでしたが、木島さんの研修を受けながら、徐々に個人宅を回って意見を聞いたり、店舗周辺における市場調査を実施したりしました」。こうして調べた結果をもとに、(株)永楽屋の「ウリ」を強化した事業提案には代表取締役の宮川孝昭社長から「100点満点」の評価が。4人が試行錯誤を繰り返した成果が、ここに表れた。「調査が思うように進められず、落ち込んだことも。さまざまな人から話を聞く経験を通じて、営業の大変さも実感した気がします」と、その苦労を語る。さらに「企画をまとめてみると、調べてもまだまだ足りないということに気付く。情報の取捨選択もしなければならず、社会にでてから企画書を作る際にも、多くのことを調べないと自分のためにも会社のためにもならないことを痛感しています」とも。(株)永楽屋でのインターンシップが、仕事のイメージを現実なものにしたようだ。

この事業に関する
質問・お問い合わせ先

彦根商工会議所

〒522-0063 滋賀県彦根市中央町3-8

TEL 0749-22-4551 FAX 0749-28-2730 URL <http://www.hikone-ccl.or.jp/>



出会ってみると素敵な発見がある

京滋地域に 生き方を育む企業、ゾクゾク

仕事に対して求めるものはなんだろうか。やりがい、生きがい、そこに働く人たち、そして給料。関心事は人それぞれ、答えはひとつではないだろう。

では、大企業と中小企業という選択肢ならどうだろうか。

立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）に学ぶ新卒予定約600名の学生のうち、その約98%もの学生は大企業への就職を希望している。だが、志望していた企業に就職しても、思っていた仕事と違うという理由から、2、3年で退職してしまう若者も後を絶たない。

仕事への思いや企業の情報を整理してみると、もっと違う選択肢が見えてくる場合がある。雇用のミスマッチが解消される可能性もある。そこを手助けしようと、立命館大学理工リサーチオフィスが若者と中小企業の出会いの場作りに取り組んでいる。

ココがポイント！



働く意味を見つけるスキルアップセミナーからあっと驚く中小企業との出会いの場までを総合的にプロデュースする「アミーバ大作戦」

61万m²の敷地をもつBKCの東のはずれに、産学連携を担う理工リサーチオフィスがある。そこで、中小企業や学生のニーズを把握するための調査を行ったり、企業が学生に対してどのように情報を発信するべきかアドバイスしたり、学生の働く意味を見つける手助けをするための企画を日夜考え、実行している人たちがいる。ここには、約2,000社もの中小企業の情報が揃う。誰もが、企業のニーズとシーズを把握しているスペシャリストたちだ。彼らが学生の就職に対して有効な、「アミーバ大作戦」と銘打つ7つの支援策を打ち出した。

京滋地域の企業と触れ合うチャンスも多くつくられている。今後は就職に対して意識の高い学生を集め、企画自体を学生主体で生み出す考えだ。理工リサーチオフィスの活動からますます目が離せない。



アミーバ大作戦の7つの核



出会いの場の創出

ココがポイント！



ポスドクも注目！

研究センターと共同で行う公開セミナー

中小企業が一番不足していると考えているのは29歳以下の人材だ。その割合、滋賀県内の企業の約60%。これには新卒だけではなく、マスターや第2新卒、ポスドクにいたるまでの年代が合致する。残念なこと、大学に残って研究を続けられる人数はそう多くない。ところが、研究を続けたい人たちの進路の選択肢のひとつとして、専門分野を活かし活躍できる中小企業が数多く存在しているとしたらどうだろう。

理工リサーチオフィスでは、人材のマッチングを図る取り組みとして、研究センターと共同でセミナーを開催している。研究テーマに沿った事業展開を行っている企業が集う場を作り、教授と研究生、そして企業が密な交流を図ることのできる場として、注目度大だ。



学生向けに配られた公開セミナーチラシ

参加企業Voice

仕事をしている時間は人生の中で一番長い
だからこそ、社員一人一人の個性を見て育てたい

生田産機工業株式会社 代表取締役 生田 泰宏 さん



伸銅製造設備機械のトップメーカーとして、世界に誇る技術を掲げる生田産機工業（株）は「経営者のためのスキルアップセミナー」「社長のかばん持ち」「交流フェアへのブース出展」と、社会貢献というもうひとつの企業の使命を果たすため、アミーバ大作戦の多くに参加している京都の企業だ。生田社長は8年前に先代の社長から事業を引き継いだ3代目社長。そのため「いまだに会社が50年も続いてきた理由はなんだろう」「次の世代に伝えていかなければいけないものはなんだろう」と考えたという。様々な試行錯誤や紆余曲折があり、ここ2、3年やっと見えてきた答えが「様々な縁があって出会った社員の、本当に生きる目的やそれぞれの個性を見つけていってあげること」。それが、小さな企業だからこそできることであり、社長の役割でもある。今では「世界一親な社長」を自認し、現場のことは社員に任せているという。もちろん、社員が働きやすく、同じ目標に向かって進めるよう、事業計画や経営方針、ビジョンを朝礼や会議の場で話したり、適材適所を見極めたりはするが、社長がそのように接することで、社員の意識も高まり、会社の高い技術力も維持できているという。「仕事をしている時間は人生の中で一番長い。利益や利益！お前何ぐずぐずしてんねん！」といわれ続けている人生ってどうなんだろう。できなくても何とかガンバレよと励まされながらすごしていれば、その温かさは家族や友達の間に出てくるし、そのために社員一人一人に歩み寄って、人として成長してもらえようという場作りをしたい」と語る。



12月に行われた交流フェアの様子

学生に対しても、機会があればそのような話をしたいというが、ひとつ、気になっていることもある。「インターンシップや企業見学というのは、本来は自分が知りたいことがあるから、教えてもらいたいという意識の中でやるもの。ただ、そこに企画があるから、企業がいるからという理由で参加するのではなく、目的意識をしっかりと持って臨んでほしい」と苦言を呈す。実際、交流フェアでは1回生から4回生までの学生が企業ブースを回っていた。中には100人弱の社員で70以上の特許を持つような企業も参加している貴重な交流フェアだ。まだまだ就職は先だと思ふ人も、新たな意識と視点を持って、企業の方々の熱意ある話を耳を傾けてみるのもいいだろう。

この事業に関する
質問・お問い合わせ先

立命館大学 理工リサーチオフィス

〒525-0058 滋賀県草津市野路東1-1-1

TEL.077-561-2802 FAX.077-561-2811 URL <http://www.itsumei.ac.jp/acd/re/b-liaison/>



アジアで活躍する企業の半数以上が中小企業

気力、体力、語学力 力を試せるアジアビジネスに挑戦!

刺激あふれる食べ物だったり、オリエンタルテイストが魅力のアジアン家具だったり。目覚ましい経済成長を遂げる底力のないパワーも、魅力のひとつ。お隣中国・韓国に、ひきつけられる人は多いだろう。今や空前の「環黄海経済圏」ブーム。たくさんの企業がこの地に進出中だ。

しかし、実践的なビジネスを専門的に教えているところは、さほど多くないのも事実。文化の大流や語学力は身につけられても、中小企業で活用できる、この地特有の生きたビジネススキルを学ぶ機会は限られている。即戦力を求める中小企業が多い中、学生にとってこの環境は大きな障害。学んだ語学力を活かせないで終わる学生も多い。

そこで、語学だけではなく、アジアビジネスのイロハを教えてくれる講座が開設された。それが、(有)アジアビジネスコンサルタント(ABC)が手がける「環黄海経済圏ビジネススキルアップ講座」だ。



ココがポイント!



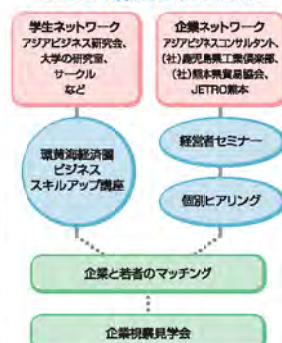
目指すは学生と企業のマッチング

出会いの場作りにむけた地道な挑戦が続く

九州では半導体や自動車製造、バイオなどの環境関連産業から食品加工にいたるまで、実に様々な分野でおよそ500社、貿易までを含めると3,000社ほどの企業がアジアに進出している。その多くが中小企業。現地に法人を構えるのではなく、技術や機械を提供し、ノウハウを指導しながら現地法人と提携して製造を行う「委託加工」が主なビジネス形態だ。

九州は「東京に行くより中国・韓国に飛ぶ方が早い」といわれるほど、日本の中でもっともアジアに近い場所。福岡からアジアへの航空・航路も発達しており、日々ビジネスで人が行き交う。ところが、新卒人材の採用となると、その数は多くないのが現状だ。そこで、学生へのスキルアップ講座と並行して、アジアビジネスの経験がある人材を求める中小企業に対し、5年後、10年後の国際ビジネスを見据えた人材戦略を説く働きかけも行っている。ゆくゆくは、このプログラムに参加した企業と学生の交流の場を設けていく予定だ。

<マッチングに向けたモデルプログラム>



2008年度は、福岡、鹿児島、熊本の名産でそれぞれの講座を開催。今後は佐賀、長崎、大分、宮崎にネットワークを広げる。

ココがポイント!



働くことが、おもしろい!!

仕事力がぐんぐん身につく、やる気が決め手のアジアビジネスHow to講座

国際舞台で働きたい、プロジェクトを自分で動かしてみたい…。そんなふうに仕事にやりがいを求めるなら、アジアビジネスに注目してみたい。なぜなら「アジアでは、若くてもゼネラルマネージャーとして仕事を任されることが多く、やる気次第では、短期間でレベルアップすることも可能」だから。ABC代表の古森政基さんは、アジアビジネスの魅力のひとつをそう語る。そんなアジアビジネスでもっとも必要なものは、語学力よりも「対応力」。異なる文化や商習慣の違いを理解し、何が起きても臨機応変な発想で対応できることがポイントとなる。さらに、コンプライアンスを遵守できる「人間力」、この地独特の人間関係を育める「コミュニケーション力」と続く。バイタリティあふれ、はっきりとした自己主張を貫く現地スタッフに負けないためにも「体調を管理する能力」も必要だ。

そんなビジネスに必要な力を学ぶために開設されたのが「環黄海経済圏ビジネススキルアップ講座」だ。九州地域で活躍する中小企業の事例を200以上も盛り込み、40時間かけて実践的なビジネスを学ぶ。講師は全員アジアビジネス経験者。もちろん、基礎的なビジネススキルや知識も習得できる。2007年からは、必要な講座を選択できるカリキュラムに細分化。多忙な学生も参加できるよう受講時間を短縮していく予定だ。

ステップ1

さまざまな事例から中国・韓国ビジネスの基礎を学ぶ

ステップ2

環黄海経済圏の貿易・海外投資を知る

ステップ3

環黄海経済圏の知財・環境に関する技術力と課題

ステップ4

ビジネスシーンで必要な言語と文化の理解を促す

ステップ5

心構え、ビジネスマナーなどのヒューマンスキル

ステップ6

環黄海経済圏で必要なビジネスマネジメントスキル

さらに!

受講した学生を中心に、アジアビジネスについて情報交換を図る「アジアビジネス研究会」も発足。現在75名の会員が活動中だ。

参加者Voice

学校では学べない専門的な知識と生の事例。

講座を終えて、今、すごくモチベーションが高いです!

福岡大学文学部東アジア地域言語学科2年生 井田 尚彰さん

「学科の先輩に誘われて受講を決めた」という井田さんは、大学で中国語を学ぶ2年生。受講前から若干の知識があったという「受講してみて、学校では学べない専門的な知識が身についた」と感想を語る。「もともと福岡の企業に就職したいという思いはあったが、九州地域で活躍する企業の事例を見て、中国でのビジネスは中小企業が強いと実感した。この講座受講をきっかけに、中国ビジネスへの関心がより高まった。今、すごくモチベーションが高いので、今後は講師の方々の企業に見学へ行くなど、交流を深めていけたら」と、意欲の強さをのぞかせた。



参加企業Voice

事前にスキルを学んできてくれるのは、企業にとって、心強い!

信号電材株式会社 管理部部長代理 前田 祐之さん

交通信号関連機器を製造し、国内で高いシェアを誇る信号電材(株)は、台湾で合弁会社を設立、駐在員と技術者を現地に派遣する。「アジアビジネスに関する人材は必要だが、今は経験者の雇用が主流。人材育成は、多くの企業にとって課題としてあると思う。そこをこのような講座で学び、ある程度のスキルを身につけてきてくれたら、企業にとっては心強いのではないか」と、事業への期待を聞かせてくれた。



この事業に関する
質問・お問い合わせ先

有限会社 アジアビジネスコンサルタント

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-3-36 1bb fukuoka 5階

TEL.092-725-3688 FAX.092-725-5431 URL <http://www.abcjapan.com/>



トライ&エラーの特別レッスン

日々問題勃発！ そんな現場で「私に任せろ」 と言える自信がもてる

前人未到の地で

新たな課題に取り組む快感を味わいつくせ！

「未知のものへの対応」に迫られる場面が続出する、それが実際の現場だ。そこで、今回のプログラムでは、「知恵のトレーニングの手法」として、話題のPBL (Problem (Project) - Based Learning: 問題解決型学習) がグループ制で導入されている。

このPBLの過程においては、キミのもつ知識を総動員させる必要がある。というのも問題解決のポイントとなる「キーワード」を取捨選択しながら、トライ&エラー、そして確認・決断を繰り返さなければならぬのだ。そして、この体験を通じ、「誰も解いたことのない問題に取り組んでいる」というやりがいを実感でき、幅広い「知恵」「創造性」「発想力」が身につくわけだ。



みやぎ新世代技術者養成カリッジ 高等等を活用した中小企業人材育成支援事業(事業スキーム)

カリキュラム作成

第1段階: 社会人・技術者としての倫理観について

第2段階①: 各テーマごとに専門分野に即した基礎的知識について

テーマ① 材料組織・分析

テーマ② 建築環境

テーマ③ 組込みソフト

第2段階②: PBL学習

成果発表・修了式



ココがポイント！

3つのテーマ設定で特定分野を徹底攻略できる！

テーマ① 材料組織・分析

製品・材料の分析技術の習得
(材料組織学・材料分析学)

学んだ問題解決法に再現性を加えるべく、実際の解析法を学ぶ。特にこのテーマ1においては、自らの問題として捉えやすくするため、自社の課題を取り上げるように促している。開発力を熱望する企業の期待に応えるかのように、ここから特許が生まれようとしている例さえみられる。



山田 公博 先生 宮城高専 鈴木 康彦 先生

テーマ② 建築環境

省エネルギーのための空調機器の開発と性能検証のための技術習得
(建築環境工学・建築設備)

新しい業務に就いて3年以内の方が対象。業務上で知りたい事柄についてアンケート調査を実施。技術者倫理と知的財産権等についての基礎知識を押さえたうえで展開している。「自分の工場のこの取り組みは省エネに該当するか」という質問に対して、省エネの4つの基準について説明するといったシーン。



宮城高専 内海 康雄 先生

テーマ③ 組込みソフト

組込みシステムの設計・開発技術の習得
(マイクロコンピュータ・デジタルシステム設計)

情報処理技術者の中でも組込み技術者は少なく、この種の研修への期待も大きい。参加者の意欲さにこちらも全力で指導にあたっている。参加者はインターネットを用いて学外からも遠隔的に研修ができる。さらに、参加者同士あるいは講師との交流を深めることも可能。



仙台電波高専 飯坂 明彦 先生

参加者Voice

詳しく、幅広く学んだので、現場に生かし、今後も受講したい！



ヤマセ電気株式会社
新規事業開発部
山田 学 さん



株式会社
イマジックデザイン
技術開発室
佐々木 佑貴 さん



凌和電子株式会社
本社工場
回路技術課
亀井川 宏人 さん

製品加工が複雑化する現在、このような分析技術は必須になってくるでしょう。特に、原理を理解したことで、分析の誤差やその要因といったことに対して判断がつくようになったことが画期的でした。また、すぐに質問できる環境も魅力です。(山田さん)

入社2年目で、温熱等に関するシミュレーションソフトを扱っています。このPBLを活用した研修・実習をさらに生かせるよう、仕事にもがんばって取り組んでいます。(佐々木さん)

知識や技術をまとめて吸収できるので、とても勉強になります。回数をこなして身体で学ぶようなしつけの人材育成を望みます。(亀井川さん)

次年度に向けて

PDCAサイクルによるブラッシュアップとe-Learningの拡大

この地域では、人材確保には熱心だが、育成には無頓着な傾向が見られた。それが、この事業をきっかけにPBL教育への期待がかけられ、マンツーマン教育が求められていることがわかり、それを実現させたのである。また、PDCA (計画・実施・検証・改善) サイクルを繰り返すことによって常にブラッシュアップを図り、毎回アンケートも実施して、次の開催に生かすようにしている。このPDCAサイクルの継続によって次年度にもさらに効果的な研修・実習の実施が期待できそうだ。

また、e-Learningによって不定期に講師から課題を出題、解答即日での評価も行った。このe-Learning上でのコミュニティやチャットが、参加者の若手同士の交流や、新しいアイデアの発表の場にもなるという。e-Learningを導入した時期は平成18年度の事業の後半部だったので、次年度以降については、こちらも内容についての検討を重ねたうえで、より大きく展開していく予定。

この事業に関する
質問・お問い合わせ先

財団法人 みやぎ産業振興機構 産学連携推進部
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-14-2 宮城県商工振興センター3階
TEL.022-225-6636 FAX.022-263-6923 URL: <http://www.joho-miyagi.or.jp/>



多彩なカリキュラムで

「何でもこい」の 知識や技能を身につけ リーダーとして活躍しよう!

都立高専の強力な教授陣と設備が 若手技術者を強力にバックアップ!

都立産業技術高等専門学校のプログラムは、少人数による講義と実習で、ものづくり技術が習得できるのがウリ。時間帯は平日は18時台から、土・日は13時からと、小さな企業でも負担の少ない時間帯に講座が設置された。

高専のある品川区、荒川区、そして大田区の各地域では、家族経営の小さな企業が多く次期経営者候補の若手が活躍しており、「ゆくゆくはチームのリーダーとして活躍してほしい」というように若手に対する期待も多く見られ、経営を担える総合力のある若手人材を求めている。一方、機械加工業に携わる企業が多く、日常の業務等の目の前の問題にとらわれやすいために視野が狭くなりやすいという傾向が見られた。そこで、「総合的な知識・技術・技能を身につけた人材」を育成するために、多彩なカリキュラムが用意されたのである。実際、配属部署にとらわれず、営業や倉庫管理等の担当者がCAD/CAMなどの専門外の分野について学ぶといった例も見られ、幅広い知識や技能を求めるニーズにしっかり対応する形になった。

都立高専には、最先端の設備が用意されており、「デジタル化への対応」も十分なので、参加した若手は、「技術開発最前線」をもぞんぶんに体感できた。

各キャンパスの具体的なカリキュラム構成は、品川キャンパスでは電気分野を担当。「コンピュータ活用モノづくり技術」「電気・電子技術」等のコースが設置された。また、荒川キャンパスでは機械分野を担当。「材料加工・特性・強度試験」「振動と制御技術」「ものづくりと生産技術」等のコースが設置された。

さらには、両キャンパス共同での応用カリキュラム(複合技術を用いた実技のみの講座)もすでにスタート。来年度以降の展開も企画されている(2年目は応用、3年目は発展、というカリキュラム展開)。

そこから、若手技術者同士の交流や、高専の設備や教授陣の活用、技術力の向上、さらには地域の強みでもある新技術・新商品開発へと発展してほしいとの期待も高まっている。

技がなければものづくりはできない。高専ではその技を教える!

品川キャンパス 井上 徹 先生

設備投資の次にくる新しい投資、それが人材育成。十数年後を担う若手にもっと「ものづくり体験」をしてもらうため、若者たちの興味を考慮しつつ実践的なカリキュラムを提供します。

まだまだ将来、サイエンスは発展しますが、それに見合った技能がなければものづくりはできません。そこでぜひ、若いうちに技術・感覚・感性を磨き、今後、イノベーション・技術開発を進めてほしいと思っています。



見学Report



1 コンピュータ活用モノづくり技術 ～CAD / CAM / CAE (技術情報システム) 実習～

品川キャンパス 朝比奈 奎一 先生

コンピュータを活用したCAD/CAM/CAE等の先端技術による設計から機械加工までのフレキシブルなモノづくり自動化システムを理解する。3次元CADのモデルを使っていかにものづくりをするかに取り組むとともに、デザイナーによる意匠設計や粘土細工、スケッチから3次元の図面を起こす。手順説明・実演、バーチャルCADシステムの業務内容と概要の説明の後、実技や体験も。参加者は、はじめて扱うソフトに戸惑いつつも興味津々といった様子だ。来年度は、より「マネジメントに携わり、コンピュータ管理を学びたい人」をターゲットとするカリキュラムを構想中とのこと。

2 材料強度試験 ～長柱の座屈試験～

荒川キャンパス 田宮 高信 先生

丸棒と角材の圧縮(座屈)試験では、はじめに座屈強度の理論と強度の分析方法を解説し、講義と実験結果の一致を確認。実験では、材料の切り出しから測定・解析まで、高専ならではの充実した試験機が実際に用いられる。設計や開発で、どのように考慮されるかが説明されるので、その重要性が分かりやすい。同コースでは引張試験や曲げ試験も取り上げられ、長時間にわたる疲労試験についてもデモと説明が行われた。たとえ話を巧みに用いるなど、田宮先生の大変わかりやすい解説が印象的。グラインダーを扱う経験はある参加者もいたが、大掛かりな強度試験機を見るのははじめて。2人組で互いの息を合わせながらの操作に、大いに盛り上がりつつあった。



3 機器とエアロダイナミクス(流れの基礎現象解析) ～流れの剥離と振動分析～

荒川キャンパス 芝沼 弘允 先生

荒川キャンパスの全国屈指の風洞(流れをつくる装置)類を用い、流れの特性について実験。今回は、特殊風洞実験。種々の形状物体に作用する流体現象の可視化手法、および渦と流れの剥離現象の可視化による流体現象の解析法を習得。参加者は1名と、ざいたくまんツマン状態。先生ともすっかり親しくなり、ゆったりと実験を楽しんでいるといった様子。

参加者Voice

基礎からの講義で「何がわからないか」がわかった!

株式会社大成 長根 潤司 さん

営業を担当しています。図面の基礎からご指導いただいたのが非常に有効で、何がわからないかがわかりました。また、日常的に2次元は使いますが、初めて3次元CADの操作も体験。とても勉強になりましたね。

「自らの手によるものづくり」に役立て、いろんな仕事ができるようになりたい!

日進精機株式会社 小椋 徹 さん

ワイヤー放電加工機を用いて業務を行っています。文系大学卒ですが、ものづくりに関する本を読んで、自分の手でものづくりがしたいと、この会社で3回アタック。車関連に勤めていた経験や、親が印刷製菓業に従事していたことも、私がものづくりを志望したことに影響があったのだと思います。この講座で補ったような理系の知識について、もっと学びたい。人ができない仕事までできるようになりたいですね。



リーダーとして社内の質問に対応したい

フイーサ株式会社 斎藤 勝 さん

研究開発(R&Dチーム)のリーダーとして、空調関係の扱いで実際に風洞やイオン発生装置(静電気除去装置)を用いることも。高専ならではの設備を使い、通常の業務について確認できる好機でした。今後、社内での質問に対応できますね。



この事業に關する
質問・お問い合わせ先

財団法人 大田区産業振興協会 企業支援グループ経営サポートチーム 高専事業担当
〒144-0035 東京都大田区南蒲田1-20-20 大田区産業プラザ内2階
TEL.03-3733-6144 FAX.03-3733-6496 URL <http://www.pia.or.jp/>





シャイな若者に朗報?!

子どもや高専生を目の前にした 試行錯誤が職場での 上手なアピール等を生んだ

「教授体験」というユニークなアプローチ
ここに、説明や交渉の苦手な若者が挑戦!

富山の県民性をたずねると、誰もが「謹厳実直（きんげんじつちく）」と口にする。今回のプログラムに際して改めてアンケートやヒアリングによってニーズを調査したところ、実はこの「謹厳実直」ならではの性格的なマイナス面をプラスに転じたいという声が多かった。それは、「もっとコミュニケーション能力を高め、自分の意見を積極的に述べたり主体的に行動する力をもってほしい」というものである。

そこで「14歳の挑戦」という中学2年生による企業へのインターンシップ制度がある等、教育界としての風土がある富山では、一連の研修の中に「教授体験」を導入。小学生や高専生に対して汗をかきながら技術的なことを説明すると、小学生や高専生から驚くべき質問が飛び出す。そこでプレゼンテーション能力が向上し、業務についての再認識にもなるしかた。

また、研修の効果を確かめるものとするために、さまざまな創造性技法を習得する合宿研修も行い、受講生から「これは仕事に使える!」と好評だった。すでに参加したいいくつかの企業から「しばらくしたら、



日常業務の中にも効果が表れはじめた」という声もある。主催側の企画意図は「富山県内全体が変わる」と。「若い技術者が積極的に動きはじめた」「富山県の産業界が変わった」という声をもたらすこと。そのためには、上司の意識も変える必要がある。現時点でも変化の一端は感じられ、周囲への影響がじわじわと表れている。

伝えることの難しさを痛感!
高専生向け教授体験に参加した
(株)青藤製作所 太田 光則さん



子どもにも興味をもてる、よくわかる説明とは?!

若手社員2人が精米機の魅力を伝える工夫で自信をつけた

1粒の種子から取れる米は2,000~3,000粒。(株)タイワ精機では「創造と感動」をスローガンに、創り出すことで感動を分かち合おうと、58名の社員が一丸となって精米機とその周辺機器を製作している。そんな企業紹介からはじまり、精米や製品、環境保護への取り組み、自らの業務内容、工場見学の注意点を小学生の子どもたちにわかりやすくみくだいて説明。

そのなかで「実際に使うお客さまのことを考えて開発をする」「どのような方法・やり方がいちばんいいかを十分考える」「うまくいかないことがあってもあきらめない」「みんなで協力して解決案を出そう」「継続して改善を行えば難しい問題でも解決できる」といったメッセージも、子どもたちに伝えた。

この教授体験参加の堀さんと山岸さんは、雰囲気をつかもうと他の企業の教授体験を事前に見学。予想以上に小学生が幼いことを実感したことで、自分たちのプレゼンテーションも、コミュニケーションを積極的に行う流れに変更。



Q&Aでは「1日に機械は何台作るの?」「全国に出荷しているの?」「精米機を作っている会社はほかにもあるの?」「ほかにも環境にいい機械はあるの?」「普通のお店からの注文も受けるの?」「この機械を発明したのは誰?」といった質問が、子どもたちから続出。2人が少々考え込んだ後で、わかりやすくていねいに説明しようとする場面も。

高井芳樹代表取締役会長も「どんな会社や家、学校にも、例えばこんな家庭を作っていくというような、基本的な方針がある。(株)タイワ精機は、大企業の下請けをしない、小さなマーケットでも日本一の会社を作ろう、みんなでの会社を盛り上げよう、という3つの方針があるの」と、子どもたちに伝えた。



最後は子どもに、精米機にお金を入れて実際に目の前で機械を操作してもらう。すると、それまで無口だった子どもたちも、大はしゃぎ! 試食しながら家庭での米との比較を話題に取り上げるなど、二人にとっても会社にとっても子どもたちにとっても、大いに刺激を受けた1日になったようだ。「また遊びに来てもいいですか」と会長に伝える女の子も!

参加者Voice



教授体験で粘り強さがUP!

株式会社タイワ精機 研究部 堀 武雄さん

新製品の設計開発業務以外に、製品の改良や特別部品の扱い、ユーザーのニーズ調査、クレーム対応などの品質保証の支援業務も担当しています。昨年度PBL (Problem (Project)-Based Learning:問題解決型学習)に参加し、上司から「昨年度、成長が見られたので、今年もフォローで受講してみないか」と声をかけられ、今年度も教授体験に参加。研究開発において必要となる、部品や材料のことを確認できたり、何を理解していないかがわかりました。また、「あきらめやすい」と常務からよくいわれていたのですが、教授体験を経て粘り強くなったのではないかと自負しています。



相手が小学生であることを常に意識

株式会社タイワ精機 生産管理部 山岸 亮法さん

営業部足の購買管理を担当。製品製作(生産への移行)、部品表の作成、生産計画・予定表の作成・生産管理のサイクル等の説明の際に「時間割のようなもの」と表現してみるなど、相手が小学生であることを常に意識しました。これ以前は、知識はあっても、煩瑣性に課題があると見られていました。例えば、部品納入先が不良品を納入したり納期が遅い場合に、不良品所の連絡や納期交渉を週回しに説明しがちであるとの指摘を受けていました。そこで、今回の受講を通して、コミュニケーション能力アップへの期待から教授体験とPBLに参加し、人と話すことが苦手でしたが、大勢の小学生に対して話すことにより、話す相手と同じ目線で進行させることが大切だと実感しました。

この事業に關する
質問・お問い合わせ先

財団法人 北陸経済研究所

〒930-8507 富山県富山市丸の内1-8-10

TEL 076-433-1134 FAX 076-433-1164 URL <http://www.hokuriku.or.jp/>





これからの勝ち組は文系?!

「理系科目に自信なし」 そんな若者こそが 次世代型リーダーだ!

普通高校・文系大卒者の諸君をパワーアップ!
エンジニアの基礎を短期間で身につける秘訣、教えます。

「業務に必要となる、専門的な内容を身につけるような学校を卒業していない」。
普通高校や文系の大学を卒業して工学系の現場に携わっているキミたちのなかには、それが不安要因になっている人もいるかもしれない。

兵庫県では、そんな若者を応援して自信を抱いてもらえるようになるためのプロジェクトが行われている。その名も、「若手技術者育成講座」。次世代の「ものづくり」を担う若き諸君を力強くバックアップしてくれるその場所は、やはり高等専門学校にある。
「普通高校や文系大学を卒業して現場で活躍する若手に、工業系の学問の基礎を伝える」。そんな目的を共有し、それぞれのプログラムを提供しているのが、国立明石工業高等専門学校と神戸市立工業高等専門学校だ。



若手技術者育成講座

普通高校・文系大学卒エンジニア

工業系学問の基礎を
習得するために参加

- | | | | |
|--------------------|---------------------------|------------------|---------------------|
| 1 機械製図
CAD基礎コース | 2 シーケンス制御
と論理設計
コース | 3 材料力学の
基礎コース | 4 電気・電子回路
と計測コース |
|--------------------|---------------------------|------------------|---------------------|

4コースをそれぞれ明石高専・神戸高専にて開催(計8コース)

兵庫工業会では、特に、明石地区の企業のニーズをアンケートにて徹底調査。
「普通高校や文系大学を卒業して活躍する若手に、工業系の学問の基礎を伝えたい」というニーズをつかみ取った。

ココがポイント!



ほとばしる汗に、その情熱がにじむユニーク講師。
ていねいな講義はもちろん
記念スタンプや修了証書まで用意!

国立明石高専 石橋 進 先生

「機械製図CAD基礎コース」は、AutoCAD LT®というソフトを用いて、顧客との取引や報告書、データのやり取りにおいて必須となるCAD技術の基本をわかりやすく伝えるものだ。

文字どおり「汗をほとばしらせ」て熱心な指導を展開するのが、明石高専の石橋先生。ソフトの使用法にのみ陥りがちなところを、機械製図の書き方の基本や手書き図面(フランチ)の作成から丁寧に指導。「機械や製図、図面、CADの意味やルールを常に意識してください」「図面が描けるということは、読めるということにもつながってきます」「すべてが理解できなくても、これが重要なきっかけになっていくはずですよ」「コマンドとおりに作業を進めればいいだけです」「互いに相談したり教えたりしながら自分のものにしていってください」と、繰り返す。参加者も手を挙げて積極的に質問。



講義は本村先生と5年生の岡野さんもフォロー。お二人は、個人のレベルの違いといった問題を埋める重要な役割を担っている。できあがったCADの作図は印刷し、先生の「記念スタンプ」を押して返却。さらに、コース終了時には、「修了証書」も授与するという徹底ぶり。このような、十分な達成感と自信が得られる演出もなされている。そして、製図とCADの基本をさっぱり押さえることができる3冊のテキストも選してくれる。これで復習もバッチリというわけだ。



参加者Voice

復習や実践を重ねて、会社の未来に結びつけていきたい

山名建設株式会社 山名 隆嗣 さん

当社では、産業ガスの販売をはじめ、高難度の精密製品の製造供給、産業機器・物流機器の販売と、三位一体の新しい技術領域の開拓を試みています。
プロフェッショナルな先生の指導を受けられ、なおかつ、土曜日、というのがありがたかったですね。

これをいい機会として、今後も復習や実践を重ね、未来や周囲、会社全体へと学んだことを広げていきたいと思っています。



次年度に向けて



やる気に自信! そんな若者たち、集まれ!!

「次期経営者候補としての自覚から意欲的に取り組んだ」「製図の基礎知識がなかったのに、図面からCAD学習をはじめられたのがよかった」「CADを使い始めたところだったのでタイミングが合った」「文系なので基本技術の習得の好機に」などの声が。また、参加者ニーズをさらに掘り下げて調査中。次年度以降への期待も高まる。

この事業に際する
質問・お問い合わせ先

社団法人 兵庫工業会

〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通7-28-33 兵庫県立産業会館3階
TEL.078-361-5667 FAX.078-371-4336 URL: <http://www.hyogo-ia.or.jp/>





企業の壁を取り去ってともに学ぼう

汎用機の使用で根本がわかる! 特定業種を徹底攻略!!

高専の教授陣や企業の先輩による指導が
明日の中小企業を変える



日々働く地域に、他にはない特徴的な地場産業があって、それが発展して全国規模の仕事を手がけられるようになった。そして将来的には海外に関する仕事も手がけられたら魅力的だと思いませんか?

岡山県津山市では、地域のポテンシャルを利用して特定の地場産業を育て上げることで意欲や能力を高め、「地域のONLY ONE」を完成させようと取り組んでいる。ここには「職人の腕がなければ成立しない」という特徴をもつ、ステンレス加工企業が70社あまり存在していた。

そこで、平成9年には産学官の連携によって「津山ステンレスネット」を組織。幅広い分野でのステンレス加工について設計から組み立てまで対応する共同受注グループが誕生し、その後、所属各社の売り上げや設備投資額が上昇している。

そして、このプログラムには、津山を「日本のステンレス加工基地」にと目指す地域の主要ステンレス加工企業25社の中から、将来の現場のリーダーとして期待を担う若者が参加。技能検定2級クラスの技術取得を目指して、高専の施設や教授陣はもちろんのこと参加企業の設備や人材も活用し、「NCフライス盤技術」「NC旋盤技術」「板金加工技術」「溶接技術」について熱心に学んでいる。また、この学びの場が、若手技術者同士の交流の場にもなっているのだ。



ココがポイント!



汎用機の使用からはじめる NCフライス盤・NC旋盤技術教育

今回のカリキュラムは、あえて現在あまり使われていない手動の汎用機の使用から講義・実習を開始。現在では、切削加工の技術はデータを入力するだけで行われるが、汎用機を使用すると手動でのさまざまな微調整が必要となるので、削り方等の基本や技術を改めて体感し、身につけることができる。

このようなカリキュラムは、他の地域での取り組みを見学したり、産学官で相談したりしながら作成したのである。参加者からは「時間が短かった。講義も実習ももっとゆっくりじっくり取り組みたい」「非常に現場に役に立った」という意欲的な声が多数上がった。

参加者Voice

先輩を見る目が変わる!
板金の加工技術教育

株式会社エステック
代表取締役
久保 直樹 さん



私たちは、このプログラムに若手を参加させるだけでなく、指導側にも設備や人材を提供しています。中小企業が生き抜くためには新しい設備投資だけでなく、外部団体を活用しての教育も必要でしょう。そこで、このプログラムは指導させていただく者にとっても、若手にとっても大変勉強になるはずです。高専の先生が用意するテキストもわかりやすいですね。



新技術を取りこみ「やわらかい人材」に育てほしい
オーエヌ工業株式会社

代表取締役専務
西山 和興 さん
常務取締役
本社工場長 生産本部長
吉田 二朗 さん



私たちはステンレス配管製品の生産を一貫して手がけており、若い人材には新技術にも取り組んでほしいと願っています。そこで、外部の専門家による研修を毎月行ったり、高専の出前講座を利用しています。プログラムは、そうした教育を補ってくれるものであり、ありがたく思っています。このようなさまざまな教育の機会を得たことによって、共同研究・共同開発にも結びついています。ただし、先輩が現場で指導すべきステンレス製造加工のノウハウは文書化できない「感性」の問題であることも多く、直接触れて覚えていくしかない面もありますね。



次年度に向けて

平成18年度は高専等を活用した標準レベルの講義・実習を行ったが、平成19年度には企業・専門家・メーカー等をさらに活用した専門技術レベルの現場教育を行う計画。

この事業に関する
質問・お問い合わせ先

つやま新産業開発推進機構

〒708-0022 岡山県津山市山下92-1 津山産地雇用労働センター内
TEL.0868-24-0740 FAX.0868-24-0881 URL <http://shinsan.tvt.ne.jp/>